

国際学会に参加して

蒼生病院 安田 果歩 (2022年入局)

私の初めての国際学会は2023年3月9日から3日間、横浜で開催されたCervical Spine Surgery Society Asia Pacific (CSRS-AP) でした。学会での発表経験もほとんど無いなか、英語での学会発表はもちろん初めてでした。「初めての英語論文」にも書かせていただいたように頸椎椎弓形成術後に起きた軸性痛がC4神経根障害ではないかというケースレポートを書いており、その途中でたびたび心が折れそうになりましたが、この論文が通ったら国際学会にも行けると励まされながら書いていました。

2022年の前半はまだコロナ禍であり、国際学会に出かけて良いような雰囲気ではなく、国内の出張も制限されているような状況でした。2022年の後半ごろから学会参加での出張に対する規制が緩和されて

きており、2022年4月に書き始めた論文が翌年の3月にAcceptされ、その論文を発表したのがCSRS-APでした。発表するにあたり医局内で予演会をさせていただいたのですが、学会で発表するよりも緊張しました。医局員の皆様からは日本語よりは聞き取りやすかったと感想をいただいて（喜んで良いのかわかりませんが）嬉しかったです。というのも、私は日本語のキ・シ・チの滑舌が悪く日本語での発表は何を言ってるのかほとんど分からないとよく言われていたので、本当に人前での発表が苦手でした。

発表に対しての苦手意識も取り払い、そして予想質問の答えも用意し、意気揚々と横浜の学会場に向かいました。発表後私は学会場で放心状態で座っていました。予想質問は用意して行ったものの、いざ



壇上に立つと一体何を質問されているのか不思議と一切聞こえなくなるのです。ただ聞こえた単語に関して予想して何かを答えたのですが、一切記憶にございません。そうして私は初めての国際学会での発表を終えました。発表自体は納得のいくものではありませんでしたが、国際学会に参加することによって、地域によって研究内容に偏りがあることや、各地で各々の研究をしてその地道な積み重ねで医療の発展があることを感じました。

学会後は焼肉好きとして横浜、東京の行ってみたかった焼肉店を梯子して回りました。

2023年6月にはスウェーデンのストックホルムで行われたCSRS Europeに参加しました。CSRS-APと同じ題でのポスター採用でした。ストックホルムはスウェーデンの首都であり北欧最大の都市とされていますが、大都会という雰囲気ではなく落ち着いた印象の街でした。学会では指導医の立場で参加している女性医師も少なくなく、やはりヨーロッパは女性の社会進出が進んでいるなという印象を受けました。今回の学会で感銘を受けたのはある日本の大学から参加していた先生からでした。英語があまりにも流暢で発言にも説得力があり、喋り出すと会場が彼の独壇場となっていました。学会とは研究した内容を世界に発信する場であり、意見を交換する場であるということを思い知らされる経験でした。

学会の合間に一緒に行っていた藤城先生、宇佐美先生、大保先生、平井先生とストックホルムの街を散策しました。街は海に面しており、旧市街の美しい街並みを散策しました。毎夜みんなでご飯を食べた後に、藤城先生の好物であるケバブを食べにいきました。胃がはち切れんばかりの満腹でホテルの部屋に帰り、お腹が落ち着いてきてやっと寝られそうとなった夜中3時にはすでに外が明るく寝不足が続きました。今となっては学会での思い出はその胃の苦しさが一番残っています。学会に参加するにあたって快く許可して下さった蒼生病院の先生方に感謝を申し上げます。また自分の専門が見つかった時に国際学会に参加したいです。

